

2025年度 シラバス作成要領

来年度開講予定の授業について、内容と計画を学内のポータルサイトに掲載します。
つきましては、先生のご担当科目について、次の要領で作成をお願いします。

《作成方法》

「教員ポータルサイト」から入力

全ての項目について入力をお願いします

【見本】

授業内容の部分

授業計画の部分

週	テーマ (2 行まで)	学習内容 (2 行まで)	単位数
1	免疫系の概観	免疫系の概念：自然免疫と獲得免疫 免疫細胞の種類、リンパ組織	50
2	自然免疫	自然免疫に関する細胞、自然免疫における病原体認識・TLR	49
3	獲得免疫：抗原の提示と提示	第1講義1（免疫系細胞、リンパ組織の種類と機能、自然免疫） 抗原提示細胞、MHC分子、抗原タンパク質の加工と提示	21.5
4	獲得免疫：抗原の認識	B細胞：BCR、抗体 T細胞：TCR	58
5	獲得免疫：細胞性免疫	T細胞の活性化に必要な分子群（共受容体、TCR複合体、共刺激分子、誘導分子） T細胞のエフェクター機能	27
6	獲得免疫：液性免疫	第1講義2（細胞性免疫） B細胞の活性化、T細胞との相互作用、抗体の機能	44.5
7	獲得免疫：液性免疫	抗体の構造、抗体の機能	86
8	細胞免疫と受動免疫、免疫寛容	細胞免疫と受動免疫、免疫寛容	64
9	免疫学的検査が有効な疾患1	第1講義3（液性免疫） 感染症と免疫学的検査—細菌	54.5
10	免疫学的検査が有効な疾患2	感染症と免疫学的検査—ウイルス	63
11	免疫学的検査が有効な疾患3	感染症と免疫学的検査—真菌、寄生虫	61
12	免疫学的検査が有効な疾患4	腫瘍免疫と免疫学的検査 アレルギーと免疫学的検査	55
13	免疫学的検査が有効な疾患5	自己免疫疾患と免疫学的検査	65
14	免疫学的検査が有効な疾患6	免疫不全と免疫学的検査 免疫学的検査が有効な疾患 まとめ	51
15	まとめ	第1講義4（免疫学的検査が有効な疾患） 臨床応用	53.5

入力期限 2月7日（金） 23時59分

【入力方法】

①科目の情報

学科・授業科目の区分・ID 番号・科目名・授業方法・単位数・選択区分・開講年次・開講学期 → **既に入力済** (変更不可) ※間違いがありましたらお知らせください。

科目の情報					
科目名	免疫学				
担当教員氏名	●●●●				
開講年次	2025 年度	学科・専攻・コース	臨床検査・臨床検査	学年・学期	1年・後期
授業方法	講義	必修・選択	必修	単位	1 単位

②ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力

- 最初の記号が **A 1 1** または **A 1 2** または **A 1 3** の該当する項目を選択し、ドロップダウンリスト(赤枠の▼)で、◎か○を選択する。
- 最大 **5 項目** まで選択が可能
- 選択した項目のみシラバスに自動的に表示される。

表示例



③授業の概要 (196 文字以内)

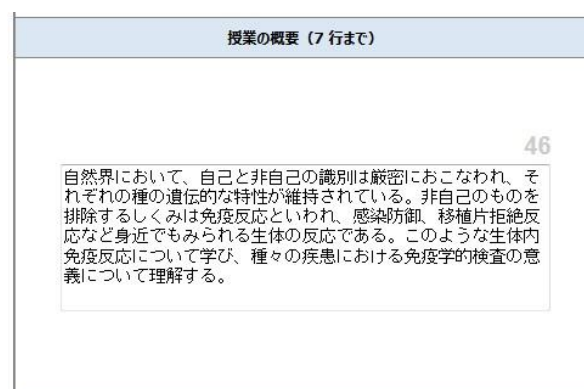
授業の目的の説明を入れる。

- この授業を設けている「理由」を学生が理解できる内容にする。

「～が理解できるようになるために、～について学ぶ」というような表現にすると目的を理解しやすい。

- 「学生便覧」に記載されている「カリキュラムポリシー」と関連させた内容にする。
- 内容は、**簡潔**にまとめる。
- 学生に**わかりやすい表現**にする。
- 実務家教員の場合は、授業内容が実務経験に基づく内容になっていること。

入力例



④授業の到達目標（196 文字以内）

- 「ディプロマポリシー」に沿って、到達目標を具体的にする。
- 学生を主語にし、簡潔に箇条書きに「～できる。」「～を理解している。」など
- 抽象的な表現はさける。
- 目標が多くならないようにする。

入力例

授業の到達目標（7 行まで）	
	90
①自然免疫による感染防御機構を説明できる。 ②自然免疫から獲得免疫への移行を説明できる。 ③獲得免疫における免疫応答と免疫反応を説明できる。 ④免疫学的検査が有効な疾患について免疫応答と免疫反応に関連付けて説明できる。	

★実験、実習、及び講義中のアクティブラーニングは、できるだけ、
「ルーブリック評価」を取り入れてください。

⑤成績評価の方法（140 文字以内）

- 「学修成果」と関連付けた「到達目標」の項目が、達成できているか評価する。

評価方法の方法

- あいまいな評価法は用いない。
- たった1回の試験で評価しない。

（「期末試験 100%」は不可 ※注1を参照）

- 数値で比較できない情緒的判断による評価はしない。
- 確認試験（小テスト）、時間外学修のための課題、中間試験、期末試験などで、総合的に科目の学修成果を査定する。
- 数値化された公平な評価であること。

・実験、実習、及び講義中のアクティブラーニング（ディスカッションなど）は、できるだけ「ルーブリック評価」を取り入れてください。

- 「出席」は評価対象に入れない。
- 「平常点」を評価対象とする場合は必ずその内訳を記入する。

入力例 1

成績評価の方法（5行まで）	
	41
①平常点 50%（小テスト30%、AL10%、学修ノート10%） AL：アクティブラーニング ルーブリックで評価します。	
②期末試験 50% 《試験のフィードバック方法》 期末試験終了後に解説する。試験60分・解説30分	

入力例 2

成績評価の方法（5行まで）	
	65
①レポート（70%） ②平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%）） 《課題へのフィードバックの方法》 提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。	

記載例 1

小テスト 20%、中間試験 30%、
期末試験 40%、アクティブラーニング
（ルーブリック評価）10%

記載例 2

中間試験 30%、期末試験 60%、平常点
（小テスト・発表など）10%

・評価について学生への

《フィードバックの方法》を記載する。

記載例 1

期末試験後に解説を行う。(試験 60 分・
解説 30 分)

記載例 3

レポート(提出物)について講評の時間
を設ける。

記載例 2

小テスト：試験後に解説(10 分)
期末試験：試験(60 分)後に解説(30 分)

※注 1

期末試験だけで評価を行うのではなく、試験に加えて、質問・発言内容・レポートなどを組み合わせた評価方法をお願いします。

また、「③授業の到達目標」に対する達成度も成績評価の重要な項目となりますので、段階的に到達度を測り、毎回の講義の積算が成績評価に反映されるような方法(複数回の確認テスト(小テスト))をお願いします。

⑥テキスト (84 文字以内)

- ・授業で使用し、学生に必ず購入させるものを記入する。

著者名「テキスト名」(出版社名)
の順番と様式で記入する。

- ・資料等を配布する場合は、その旨を記入する。

入力例

テキスト (3 行まで)	
窪田哲朗他 臨床検査学講座「免疫検査学」医歯薬出版	31
配布資料：授業内容と事後学修のための問題を記載している。	

⑦参考図書 (168 文字以内)

- ・参考として紹介するもので、購入させないものを記入する。
- ・授業では直接使用しないが、持っている
と参考になるものを記入する。

著者名「テキスト名」(出版社名)
の順番と様式で記入する。

入力例

参考図書 (6 行まで)	
「病気が見える④免疫・膠原病・感染症」MEDIC MEDIA	132.5
その他適宜紹介します。	

⑧授業時間外学修（168 文字以内）

事前学修と事後学修に分けて記入する。

学生は、何からとりかかれば良いのか分からないので、具体的に

- ・ **事前学修** この学修を踏まえて授業が進められるような内容を具体的に
- ・ **事後学修** 復習することを具体的に
- ・ およその**所要時間**を記入

入力例

授業時間外学修（6 行まで）	
22	学修ノート（A4）を準備し、事前事後学修の内容を記す。 事前学修（20分）：次回の授業範囲を読み、授業計画の学習内容欄に示した単元について簡単な説明をノートに書く。 事後学修（60分）：教科書とプリントを参考に、復習問題を解き、最後に授業の要点を記す。 授業中にディスカッション、グループワークを行う。

記載例 1

事前学修

- ・ 授業計画に記載した語句(キーワード)の意味を調べノートに書いてくる。
(20 分程度)
- ・ 必ず事前にテキストに目を通しておくこと。(20 分程度)
- ・ テーマを与えて、授業前に調べてもらうこともある。(30～40 分程度)

など

事後学修

- ・ 教科書と配布プリントを参考にしながら、復習問題を解く。(60 分程度)
- ・ 毎回行う小テストの復習 (20 分程度)
- ・ 過去問題に取り組み、間違った問題を復習する。(10 分程度)

など

⑨備考（84 文字以内）

- ・ 受講するためのアドバイスや授業実施方法などを記入する。

記載例

- ・ ノート整理が重要です。
- ・ 実務家教員による授業の場合は、「実務家教員による授業」と記入する。

など

入力例

備考（3 行まで）
実務家教員による授業

実務家教員の場合は、**実務家教員による授業**とご記入する。

★アクティブラーニング で授業を行う場合は、⑩授業計画の学習内容の欄に記入する。

⑩授業計画

テーマ（各回 2 行×11 文字以内）

学習内容（各回 2 行×39 文字以内）

「期末試験」は入力しない。

テーマ・学習内容

「学習内容」は、「事前学修」しやすいようにできるだけ詳しく、具体的にします。

★アクティブラーニングの手法で授業をする場合は、手法名を具体的に記載する。

《アクティブラーニングの手法 例》

P B I (問題解決型学習)、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク など

★ICTを活用した情報分析等の要素を含む授業とは『授業全体を通じてIT技術を活用する授業内容であること』

- ・IT技術を有効活用して、情報を伝達・交換することに着眼点を置いている。
- ・IT技術を学習する授業がベースになっている。

授業計画			
講	テーマ (2行まで)	学習内容 (2行まで)	
1	免疫系の構成要素	免疫系の概念、免疫反応細胞：リンパ球(T, B, NK)、顆粒球、樹状細胞、骨髄細胞、肥満細胞	30
2	免疫系の構成要素	中枢リンパ臓器、末梢リンパ臓器：骨髄、胸腺、脾臓、リンパ管とリンパ節、MALT	41
3	自然免疫	自然免疫における病原体認識の機序、自然免疫の構成要素と機序：パターン認識、Toll-like receptors, アポトーシス	24.5
4	獲得免疫系への抗原提示	APCによる抗原の取り込み、MHC分子、抗原の加工とペプチド化、MHCクラスII分子、MHCクラスIII分子、抗原性肽、抗原性肽	22.5
5	獲得免疫における抗原の認識	B細胞の抗原認識、抗原の認識、抗原の認識と機序、T細胞の抗原認識：抗原MHC複合体の可変部と抗原の機序、アイソタイプ、アロタイプ、イデオタイプ	9
6	T細胞の活性化機序と発現	T細胞の活性化に必要な分子群：TCR複合体、共受容体、共刺激分子、エフェクター機序	39.5
7	抗原の産生機序と発現	B細胞とT細胞の相互作用、抗原産生、抗原の機序：リンパ臓器、抗原産生細胞の機序、クラススイッチ	29.5
8	獲得系の3つの経路：各経路の活性化：別経路、レクチン経路、古典経路、アポフィロチン、膜タンパク	獲得系の3つの経路：各経路の活性化：別経路、レクチン経路、古典経路、アポフィロチン、膜タンパク	30.5
9	まとめ1	到達目標① AL: 第1回～第8回までの内容をプレゼンテーションする。	44
10	細胞免疫と受動免疫、自己免疫	細胞免疫、受動免疫、自己免疫：ワクチン、抗毒素、免疫グロブリン製剤、移植免疫、positive/negative	25.5
11	免疫学的検査が有用な疾患	細菌感染症、ウイルス感染症：エンドトキシン、異型肺炎、異好抗体、血球凝集反応	39
12	免疫学的検査が有用な疾患	ウイルス感染症、真菌感染症、寄生虫感染症：ウイルス性肝炎、インフルエンザ、HIV、オセルタミビル、B-2グルカン	24.5
13	免疫学的検査が有用な疾患	腫瘍性疾患、アレルギー：腫瘍マーカー、Mタンパク、I型アレルギー	44
14	免疫学的検査が有用な疾患	自己免疫疾患、免疫不全症：組織特異的/全身性自己免疫疾患、B細胞・T細胞・樹状細胞の障害、補体	26
15	まとめ2	到達目標② AL: 第10回～第14回までの内容をプレゼンテーションする。	46

記載例

(実施する日の学習内容の欄や備考に記載する。)

- ・グループ別に課題についてディスカッションしてまとめる。
- ・研究発表会は、パワーポイントを用いてプレゼンテーションする。

例

- ・Webでバラバラの情報を集めて○○サイトを作る。
- ・廿日市市の産業情報や観光地情報を収集し、山女視点のサイトを立ち上げHPにアップする。

《授業回数が **15 回未満** の場合》

入力例 1

文字が入力されていない全ての「テーマ」と「学習内容」の枠に、スペースキーで「空白」を 1 文字以上入力する。

入力例 1 《15 回未満》

授業計画		
週	テーマ (2 行まで)	学習内容 (2 行まで)
1	1 採血 20	血清分離法、血清保存法 67
2	2 凝集反応 18	ポールバネル反応、梅毒検査 64
3	3 溶菌反応 18	CH50 76
4	4 電気泳動法 17	免疫電気泳動法 71
5	5 非標識抗原抗体反応 13	免疫比濁法 73
6	6 標識抗原抗体反応 14	放射免疫測定法 71
7	7 標識抗原抗体反応 14	蛍光抗体法 73
8	8 標識抗原抗体反応 14	酵素免疫測定法、免疫拡散法、免疫電泳法 68
9	9 21	～ 以下の枠には1文字ずつ空白が入っている ～
10	10 24	24
11	11	注意; 15 回未満の場合は、文字が1文字も入力されていない枠があると登録できないため、全ての枠に必ずスペースキーで「空白」を1文字以上入力 する。
12	12	
13	13	
14	14	
15	15	

入力例 2 《16～30 回》

授業計画		
週	テーマ (2 行まで)	学習内容 (2 行まで)
1	1 免疫系のしくみ① 2 免疫系のしくみ② 4	免疫の概要 自然免疫と獲得免疫 64
2	3 免疫系のしくみ③ 4 免疫系のしくみ④ 4	異体免疫 細胞性免疫、受動・能動免疫、免疫寛容 56
3	5 免疫学的検査① 6 免疫学的検査② 6	抗原抗体反応、検査法 感染症と検査 62
4	7 免疫学的検査③ 8 免疫学的検査④ 6	アレルギー、腫瘍と検査 自己免疫、免疫不全と検査 55
5	9 輸血・移植検査① 10 輸血・移植検査② 3.5	A/B 式血液型、Rh 式血液型 血液製剤、輸血副作用 56.5

《授業回数が **16～30 回** の場合》

入力例 2

1 つの枠を 上下に分けて、2 回分の授業のテーマと内容の入力をする。

【登録(仮)方法】

	思ふ	9.0	アレルギーと免疫学的検査	9.0
13	免疫学的検査が有効な疾患4	9.5	自己免疫疾患と免疫学的検査	65
14	免疫学的検査が有効な疾患5	9.5	免疫不全と免疫学的検査 免疫学的検査が有効な疾患 まとめ	51
15	まとめ	19	確認試験4（免疫学的検査が有効な疾患） 国家試験問題	53.5

☐ 確定する（確定後は編集が出来なくなりますのでご注意ください）

チェックしない！

仮登録…入力後 **A** をクリックしてください。

お願い この時点では「確定」しないでください

※注意！ 1文字も入ってない枠があると、登録できません。

チェック、修正等終了後、改めて「確定」をお願いします。

【完成見本】

《専門教育科目 専門基礎》					
科目名					
担当者氏名					
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎	1-66（知識と理解）臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。			
	◎	3-70（態度と志向性）グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。			
	◎	4-72（総合的な学習経験と創造的思考力）習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。			
《授業の概要》			《テキスト》		
自然界において、自己と非自己の識別は厳密におこなわれ、個々の遺伝的な特性が維持されている。異物から体を守るしくみを生体防御機構とよび、感染防御、移植片拒絶反応などの免疫システムがある。この免疫システムについて学び、種々の免疫性疾患の病態と検査法の理解に役立てる。			窪田哲朗他 臨床検査学講座「免疫検査学」医歯薬出版 PF配布資料pdf：授業内容と事後学修のための問題を記載している。		
			《参考図書》		
			「病気が見える◎免疫・膠原病・感染症」MEDIC MEDIA その他適宜紹介します。		
《授業の到達目標》			《授業時間外学修》		
①自然免疫による感染防御機構を説明できる。 ②自然免疫から獲得免疫への移行を説明できる。 ③獲得免疫における免疫応答・免疫反応を説明できる。 ④免疫学的検査が有効な疾患について、免疫応答・免疫反応に関連付けて説明できる。 学修ノート作成では、語句・項目ごとのラベルワークを推奨します。			授業は遠隔（ZoomとPF）で実施します。専用の大学ノート（A4）を準備し、学修内容を全て記すこと。 事前学修（20分）：授業計画の学習内容欄に示した語句について意味を確認しておく。 事後学修（60分）：教科書と配布資料を読み、授業内容を復習する。問題を解いて理解したか確認する。		
《成績評価の方法》			《備考》		
①平常点 50%（学修ノート30%、冬休み課題10%、アクティブラーニング10%）②試験50%（授業1～8回の試験：30%、授業10～15回の試験20%） 《試験のフィードバック方法》 試験終了後に解説する。試験60分・解説30分			対面授業をする場合は定められた感染予防対策を講じた上で授業を行います。遠隔授業により教育の質が向上するよう努力します。		
《授業計画》					
週	テーマ	学習内容			
1	免疫系の構成要素	免疫系の概念、免疫担当細胞、中枢リンパ組織、末梢リンパ組織 リンパ球、顆粒球、抗原提示細胞、骨髄、胸腺、リンパ管とリンパ			
2	自然免疫	自然免疫における病原体認識の特徴、自然免疫の構成要素と機能 パターン認識、Toll-like receptors, アポトーシス			
3	獲得免疫	抗原提示：APCによる抗原の取り込み、MHC分子、抗原のプロセッシング MHCクラスⅠ分子、MHCクラスⅡ分子、外来性抗原、内源性抗原			
4	獲得免疫	抗原の認識：B細胞の抗原認識、抗体の種類、抗体の構造と機能、T細胞の抗原認識、遺伝子の再構成、アイソタイプ、アロタイプ、イデオタイプ			
5	獲得免疫	T細胞の活性化機構と役割：T細胞の活性化に必要な分子群 TCR複合体、共受容体、共刺激分子、エフェクター機構			
6	獲得免疫	抗体の産生機構と役割：B細胞とT細胞の相互作用、抗体産生、抗体の機能 リンパ濾胞、H鎖定常部遺伝子の再構成、クラススイッチ			
7	獲得免疫	補体系の役割：補体系の3つの経路、各経路の活性化 別経路、レクチン経路、古典経路、アナフィラトキシン、補体調節因子			
8	獲得免疫	能動免疫・受動免疫、自己寛容の成立 ワクチン、免疫グロブリン製剤、母乳免疫、positive selection, negative selection			
9	自然免疫と獲得免疫のまとめ	中間試験（対面、感染予防対策上、教室や授業時間帯を変更する可能性がある） 講義1～8回の試験60分、解説30分、学修ノート提出			
10	免疫学的検査が有効な疾患	細菌感染症、真菌感染症、寄生虫感染症に対する免疫反応 エンドトキシン、β-Dグルカン、アレルギー グループワーク（遠隔）			
11	免疫学的検査が有効な疾患	ウイルス感染症に対する免疫反応 ウイルス性肝炎、インフルエンザ、HIV感染症 グループワーク（遠隔）			
12	免疫学的検査が有効な疾患	ウイルス感染症に対する免疫反応：インフルエンザ、HIV感染症、腫瘍マーカー、Mタンパク、 I～IV型アレルギー グループワーク（遠隔）			
13	免疫学的検査が有効な疾患	腫瘍性疾患に対する免疫反応、アレルギーでみられる免疫反応 腫瘍マーカー、Mタンパク、I～IV型アレルギー グループワーク（遠隔）			
14	免疫学的検査が有効な疾患	自己免疫疾患：自己寛容の破綻 免疫不全症：先天性・後天性、体液性・細胞性免疫 グループワーク（遠隔）			
15	免疫学的検査が有効な疾患	グループワークでまとめた内容をプレゼンテーション（遠隔）する。ルーブリック評価（学生、教員）			

【全内容を別のシラバスに複写する方法】

I. 来年度用に作成したシラバスを他のシラバスに複写

既に入力済みの来年度のご自身のシラバスを編集中の他のシラバスに、丸ごとコピーできます。（同じ科目を複数入力する時に便利です。）

注意；コピーする科目を間違えないようにしてください。

※下の赤枠の「シラバスの複写」をクリックする

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

シラバス登録 > 編集

科目の情報					
科目名	先産学				
担当者氏名	●●●●				
開校年度	2025 年度	学科・専攻・コース	臨床検査・臨床検査	学年・学期	1年・後期
授業方法	講義	必修・選択	必修	単位	1 単位

シラバスの複写 シラバスの印刷

シラバスの情報

Ⅱ. 前年度以前に作成したシラバスを複写する

ご自身が入力された前年度のシラバスの内容を編集集中の他のシラバスに丸ごとコピーできます。(内容が前年度とあまり変わらない場合に便利です。)

注意；コピーする科目を間違えないようにしてください。

1. 「シラバス」→「シラバス検索」、該当箇所にチェックまたは文字を入力し「検索」をクリックする。

教職員ポータルサイト

職員 ●●●● でログイン中 ログアウト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

トップ シラバス検索 シラバス登録

シラバス検索

シラバスの表示条件

① 開設年度	☒ 2025 年度 ☒ 2024 年度 ☐ 2022 年度 ☐ 2021 年度			
② 開設学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年			
③ 学科・専攻	☐ 人間生活学科 ☐ 食物栄養学科 (栄養管理) ☐ 食物栄養学科 (フードビジネス) ☐ 人間(医情) ☐ 食物(栄養) ☐ 専攻(診療) ☐ 臨床検査学科 (臨床検査) ☐ 食物栄養学科 (栄養調理) ☐ 人間生活学科 (ライフデザイン) ☐ 人間(オフィス) ☐ 食物(フード) ☐ 人間生活学科 (人間関係) ☐ 人間生活学科 (医療事務) ☐ 人間(医療) ☐ 食物(栄養) ☒ 臨床(臨床) ☐ 食物栄養学科 ☐ 臨床検査学科 ☐ 人間(人間) ☐ 人間(心理) ☐ 食物 (食品)			
④ 開設学年	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年			
⑤ 担当教員 (部分一致)	●●			⑥ 授業科目名 (部分一致) ▲▲学

検索 クリア

- この中から
項目を選んで検索する
2つ程度
の
- | | |
|---------|--|
| ① 開設年度 | 2025 年度・2024 年度ともに ☒ を入れる |
| ② 開設学期 | 該当学期に ☒ を入れる |
| ③ 学科・専攻 | 該当する学科コース略名 (短い方) に ☒ を入れる |
| ④ 開設学年 | 該当学年に ☒ を入れる |
| ⑤ 担当教員 | 苗字のみか名前のみを入力する |
| ⑥ 授業科目名 | 対象科目名を入力する |

【科目検索のコツ】

探している科目が検索できない場合は、検索条件を 2つ程度に 減らすと検索しやすくなります。

2. 表示された前年度のシラバスの欄の「複写」をクリックする。

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

トップ シラバス検索 シラバス登録

シラバス検索

シラバスの表示条件

開設年度 ☒ 2025 年度 ☒ 2024 年度 ☐ 2023 年度 ☐ 2022 年度

開設学期 ☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年

学科・専攻

開設学年 ☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年

担当教員 (部分一致) ●●

授業科目名 (部分一致) ▲▲学

検索 クリア

全て選択 全て解除 選択したシラバスを印刷

シラバスの検索結果

	年度	科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	編集状態	操作
	2025 年度	▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	未入力	新規
☐	2024 年度	▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	確定	閲覧 複写

3. 来年度担当科目の一覧が表示されるので、対象科目の「複写」をクリックする。

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

トップ シラバス検索 シラバス登録

▲▲学の複写先を選択します キャンセル

編集中のシラバス一覧

科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	操作
▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	複写
○○○○Ⅱ	臨床検査	2年	後期	●●●●	複写
◎◎◎◎◎演習	臨床検査・臨床検査	3年	後期	●●●●	複写

未入力のシラバス一覧

科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	操作
▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	複写
○○○○Ⅱ	臨床検査	2年	後期	●●●●	複写
◎◎◎◎◎演習	臨床検査・臨床検査	3年	後期	●●●●	複写

4. 複写された内容を確認・修正後、登録する。

4	獲得免疫：抗原の捕捉と提示 9	抗原提示細胞、MHC、抗原のプロセッシング	57.5
5	獲得免疫：抗原の認識 12	T細胞, B細胞	71
6	獲得免疫：細胞性免疫 12	T細胞	75
7	獲得免疫：液性免疫 13	B細胞、免疫グロブリン	67
8	獲得免疫：液性免疫 13	補体成分、補体活性化経路	66
9	能動免疫と受動免疫、免疫寛容 8	能動免疫と受動免疫、免疫寛容の成立	61
10	まとめ：自然免疫と獲得免疫 9	中間試験：自然免疫と獲得免疫	64
11	免疫学的検査が有効な疾患1 9.5	感染症と免疫学的検査	68
12	免疫学的検査が有効な疾患2 9.5	腫瘍免疫と免疫学的検査	67
13	免疫学的検査が有効な疾患3 9.5	アレルギーと免疫学的検査	66
14	免疫学的検査が有効な疾患4 9.5	自己免疫疾患と免疫学的検査	65
15	免疫学的検査が有効な疾患5 9.5	免疫不全と免疫学的検査、まとめ	63

☐ 確定する（確定後は編集が出来なくなりますのでご注意ください）

①

チェックしない！

仮登録…入力後 ① をクリックしてください。

お願い この時点では「確定」しないでください

チェック、修正等終了後、改めて「確定」をお願いします。